

ウイルス禍風景が一変

天津日本人学校

和田 泉さん

＝長岡市出身＝



天津は、北京から新幹線で30分ほどの所にあり、租界時代の洋館が立ち並ぶ異国情緒が漂う街です。海に続く運河の川面には夜景が美しく映えます。バスや地下鉄には大勢の人が乗り込み、夜は通りを散歩したり、広場でダンスを楽しんだりする人がいていつもにぎわっていました。

それが今年の2月、歩く人も道路の車もほとんど見られず静まりかえり、風景が一変してしまいました。

生活用品以外の店は閉まり、自宅の出入りにも、検温とスマートフォンでのQRコード認証が必要になりました。徹底的な情報管理と、3カ月以上も耐え抜いた人々の努力によって、今の天津は感染者はほぼゼロになり、元の活気を取り戻しています。

天津日本人学校は2月3日に休校になりました。オンラインでの学習を続け、そのまま新年度がスタートしています。天津に残る児

童・生徒が登校できたのは6月2日でした。とはいっても、日本に一時帰国した子どもたちのほとんどが戻ってこれないため、教室授業とオンライン配信を並行して行っています。

学校に行けば、みんなに会える。一緒に遊べる。それが当たり前でした。まさか、それができなくなるなんて…。

今はプロジェクトで映し出される各地の友達や先生と朝のあいさつをして一日が始まります。画面越しであっても、笑顔で会話を交わしている様子から、気持ちはつながっている、よし、みんなでがんばろう！ そう感じることができます。

私は天津で新型コロナウイルスの感染拡大を体験し、当たり前だと思っていたことの意味や価値をあらためて感じました。そして、どんな形であってもつながることができる人と人の絆の強さと、その温かさ。

目の前のこと、かかわる人、すべてに感謝しながら、しっかり向き合っていきたいと思っています。日本での感染が収まらず心配しています。どうか、世界中の人々が皆、安心して生活できる日が早く訪れますように。

(和田さんは1968年生まれ、長岡市寺泊地域出身。新潟大を卒業後教員になり、現在は柏崎市立北鱈石小学校在籍。2018年に天津日本人学校に赴任しました)

◇おことわり 「世界の国から」は今回で終わります。



検温と認証のチェックをする係員。天津市内のどの建物に入る場合もチェックが必要になった